

市指定有料ごみ処理袋におけるバイオプラの導入について

1 検討内容

市指定有料ごみ処理袋（以下、「ごみ袋」という）において植物由来のポリエチレンを配合した袋を導入する。

2 期待される効果

ごみの焼却時に排出されるごみ袋分の二酸化炭素の排出量を減らすことができる。
〔袋の原料である植物（サトウキビ）が光合成の過程で吸収する二酸化炭素と相殺されることで、化石燃料由来の二酸化炭素の排出量を減らすことができる。〕

3 実施の場合の予定時期

令和 8 年度契約に基づく製造分から導入することを目指す。

4 導入済の事例

都内では、三鷹市・国分寺市・国立市・日の出町がすでに導入している。
（環境省 HP：バイオプラスチック等指定ごみ袋の導入状況より）

5 懸念

- ・石油由来のポリエチレンと比較すると、割高であること。
- ・安定的な供給に懸念があること。

〔Braskem 社（ブラジル）が生産するサトウキビ由来のものが現在流通している主たるものであり、同等規模の他社がない。〕

例：三鷹市指定有料ごみ処理袋

